

平成16年度資源評価票(ダイジェスト版)

標準和名 ブワイガニ

学名 *Chionoecetes opilio*

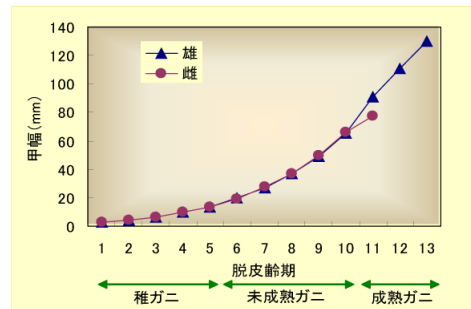
系群名 太平洋北部系群

担当水研 東北区水産研究所



生物学的特性

寿命: 不明
成熟開始年齢: 50%成熟サイズは雄甲幅78.6mm、雌甲幅65.8mm
産卵期・産卵場: 不明
索餌期・索餌場: 周年、水深150～750m
食性: 不明
捕食者: 不明

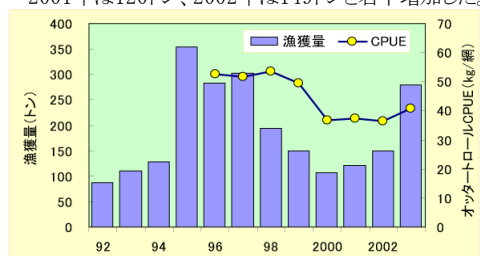


漁業の特徴

主として福島県において沖合底びき網により漁獲されている。福島県では1975～1980年頃からブワイガニを漁獲するようになった。1995年以降の漁獲量は107～353トンで、日本海やオホーツク海に比べて少ないが、福島県では重要な資源の一つである。本海域では1996年に省令に基づく規制が導入され、操業期間は12月10日～翌年3月31日で、雄は甲幅8cm未満、雌は外仔を持たない未成熟ガニの漁獲が周年禁止されている。

漁獲の動向

漁獲統計は十分には整備されておらず、1992年以降の漁獲量しか把握されていない。それによると、1995年漁期(1995年12月～1996年3月)の漁獲量は最高の353トンであったが、2000年には107トンに減少した。このような漁獲量の減少は価格の低下のため、ブワイガニを対象とした操業隻数が減少したことも1つの要因と考えられる。その後、2001年は120トン、2002年は149トンと若干増加した。2003年は茨城の漁獲が急増し、漁獲量は279トンとなった。

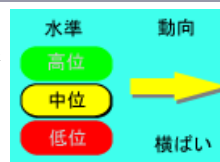


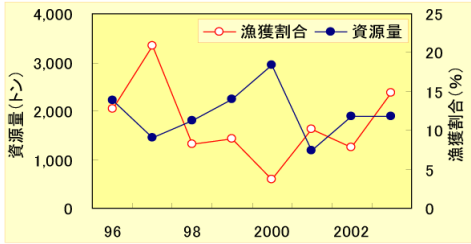
資源評価法

秋季に東北海域全域でトロール網による底魚類資源量調査を実施し(水深150～900m、計100地点)、北部と南部および水深帯別に海域を層化し、面積×密度法により資源量を推定した。また、トロール調査と曳航式深海ビデオカメラの比較試験の結果から、トロール網の身網の採集効率(網の前にいたカニが網に入る比率)を0.3とした。調査結果から、雌雄別にブワイガニ資源全体の甲幅組成を計算し、漁獲対象資源量と2004年および2005年の加入量を推定して、2005年の資源量を予測した。

資源状態

2003年10月時点における資源量は全体で27,881千尾(CV:雄0.22、雌0.23)、3,210トン(CV:雄0.22、雌0.29)で、そのうち漁獲対象すなわち甲幅80mm以上の雄ガニと成熟雌ガニを合わせた資源量は9,758千尾、1,889トンと推定された。2003年のブワイガニ全体の資源量は2002年とほぼ同じで多く、漁獲対象資源量も比較的高い値となった。2004年漁期の雌の加入量は少ないが、2005年の加入量が多いと予測される。資源水準は中位で横ばい傾向と判断した。





管理方策

再生産関係が明らかではないが、再生産を考慮して漁期後の雌ガニ資源量を現状（1996～2002年の平均値である520トン）より減少させないことを管理目標とする。現状の漁獲割合は最高で21％、平均で10％程度となり、資源の利用度は高くはないと考えられ、現状程度の漁獲であれば資源を維持できると判断した。Flimitを2001～2003年の平均値（0.12）、FtargetをFlimit×0.7（安全率を考慮した係数）としてABCを算定した。2004年の漁獲量をTACと等しいと仮定し、2005年のFを0.12として計算した場合、漁期後の雌ガニ資源量は2004年518トン、2005年572トンと基準値とほぼ同じか上回る量となる。

	2005年漁獲量	管理基準	管理の考え方	F値	漁獲割合	評価
ABClimit	410トン	Fave3-yr	現状の成熟雌ガニ量を維持して資源を維持	0.12	10.7%	2005年漁期後の雌資源量は過去の平均520トンを上回る
ABCtarget	280トン	0.7Fave3-yr	現状の成熟雌ガニ量を維持して資源を維持（予防的措置）	0.08	7.3%	-
参考値	180トン	Cave3-yr	近年の漁獲量を維持	0.05	4.7%	-
	200トン	Cave8-yr	過去8年の漁獲量の平均	0.06	5.2%	-

漁獲割合＝ABC／資源重量
ABCは10トン未満を四捨五入した値

資源評価のまとめ

- 2003年10月の漁獲対象資源量は雌雄合計で9,758千尾、1,889トン
- 1996年以降の資源調査結果では、雄ガニに比較して雌ガニの加入量が少ない傾向
- 2004年漁期の雌ガニの加入量は、2003年の1/3となる見込み
- 2005年の雄ガニの加入量は、過去最高と推測される

管理方策のまとめ

- 雌ガニの資源量を減少させないことが重要
- 漁期後の雌ガニの資源量が、平均的な値より減少しない程度に漁獲強度を維持

資源変動と海洋環境との関係

浮遊期幼生の生残、着底海域への移送等に海流や水塊配置などが大きな影響を与えると推測されるが、詳細については不明である。

資源評価は毎年更新されます。